



より良い社会へ

大田区立大森第六中学校 三年 福島 一穂

「給食費を払っているんだから、たくさん給食を食べてきて……。」
私はまだ幼かった頃、母が私にそう言った。私はその言葉の意味が全くわからなかった。ある時給食費のかかれた紙が配られた。何だろうと思つて母に聞いてみた。すると母は

「給食は夕夕で食べることはできないの。つまりお金を払わなくてはいけないんだよ。」
と言った。

私は給食が大好きだった。毎日違うメニューを食べることができ、栄養満点だ。何より給食は美味しい。授業中では給食が待ちきれなかった。コロナ禍の前は友達と一緒に机をくっつけて、おしゃべりしながら食べるのがとても楽しかった。私にとって給食は学校生活を豊かにするものだ。

ところで今年度、私が住む大田区で給食費無償化が始まった。そのため私達の保護者が給食費を払うのではなく、国の税金で賄うことになる。給食費無償化によって膨大な量の税金が使われる。その税金によって、私達は毎日美味しい給食を食べることができるようだ。私達は給食によつ

て、充実した食の環境を整えることができ、健康増進にもつながる。また保護者の負担も減り、子育て支援の充実を図ることもできる。すべての小中学生が税金によって支えられている。給食だけではない。いつも使っている机や椅子、教科書、実験道具、プール、図書館の本なども税金によって賄われている。私達の生活は税金によって成り立っていることを改めて実感させられた。私は、これらのことから、国の支援によって一部の人が得するのではなく全ての人がより良い生活を送れるのだと思った。給食費無償化によって全ての子供が平等に美味しい給食を食べることができるよう。

税金について調べてみると、納税は国民の三大義務だと知った。私達がお店でモノを買うときに消費税がかかる。最初は、なぜ消費税を払わなくてはいけないのか分からなかった。その時は税が何のためにあるのか知らなかった。だが私の給食に対する体験を通して、税金はすべての国民が平等に豊かに暮らせるためにあるのだと思った。税金に対する意識が変わったことで、税金が日常生活にいかに重要なものなのかということも痛感できた。これからも税金が誰かのためになり、一人でも多くの人が豊かな生活をおくれる世の中になってほしい。そのためには多くの人が税金の必要性を感じる事が大切だ。そして私はこれから、しっかりと働いて納税を行い、社会のために少しでも役立つ人でありたい。